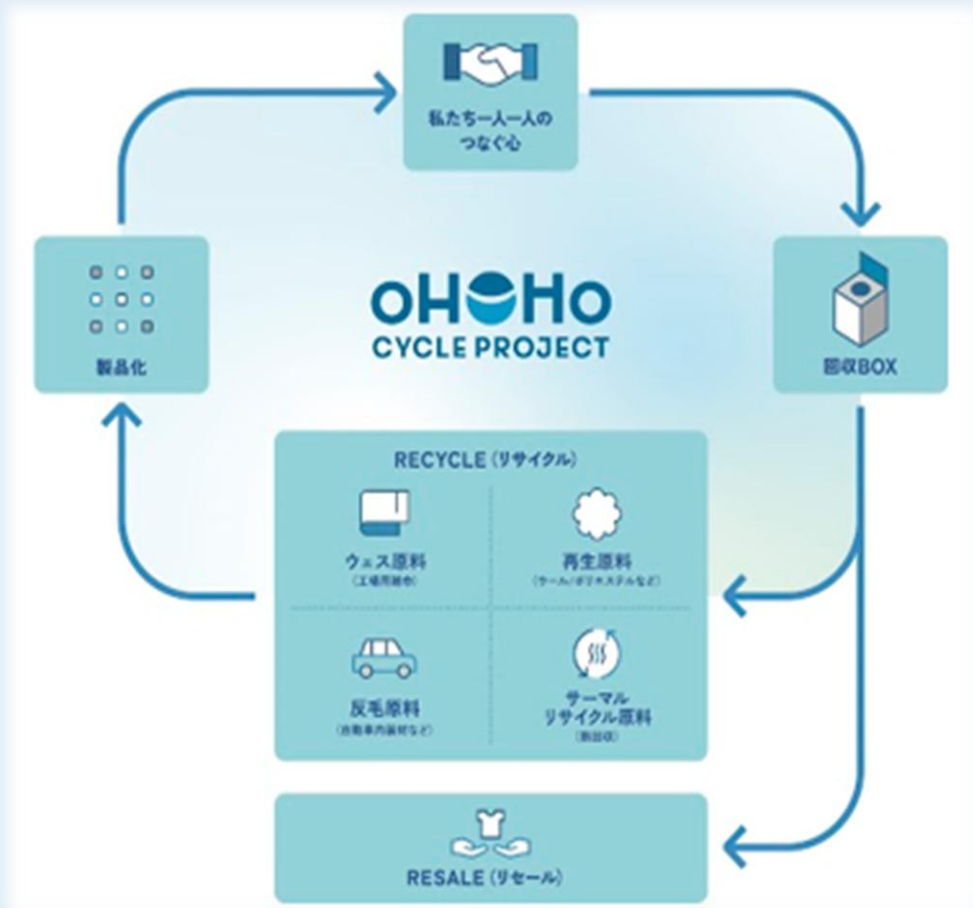


令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に 関するモデル実証事業 最終報告書





INDEX

- 1.事業概要
- 2.本事業における3つの柱
- 3.事業成果
- 4.生活者インサイト①
- 5.生活者インサイト②
- 6.行動変容（広報・プロモーション）
- 7.強化項目①結果と考察
- 8.強化項目②結果と考察
- 9.強化項目③結果と考察
- 10.結論

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会

1.事業概要：地域共創型サーキュラーエコノミーの実現へ

背景と目的

衣類の大量生産・消費・廃棄という直線型経済から脱却し、地域社会が潤う循環型経済への移行が急務です。本実証事業は、大阪府をモデル地域とし、生活者、事業者、行政が一体となった持続可能な衣類回収・資源循環システム「oHOHo CYCLE PROJECT」の構築を目指すものです。

「捨てる」から「つなぐ」へ。サプライチェーンが一体となった大阪モデル

■連携パートナー：計11企業

青山商事、Earth hacks、エイチ・ツー・オー商業開発
エイチ・ツー・オーリテイリング、JR西日本SC開発、住友大阪セメント
帝人フロンティア、阪急阪神百貨店、ファイバーシーディーエム
MILKBOTTLE SHAKERS、モリリン

■連携行政：計6自治体

大阪府、吹田市、藤井寺市、守口市、豊中市、泉佐野市

定量目標
使用済衣類
回収拠点

50

拠点設置

定量目標
使用済衣類
回収量

10,000kg

前年比202%

定量目標
使用済衣類
循環比率

リサイクル46%
リユース 54%

■回収拠点

目標50拠点に対し、76拠点を設置

(小売・SC：64、行政庁舎：11、その他：1)



2.本実証事業における3つの柱（令和7年度強化項目）

前年度の成果を踏まえ、持続可能なシステム構築に向けて以下の3項目を重点的に検証しました。
本報告書は、これらの項目に対する実証結果を報告するものです。

強化項目	主な検証内容
① 生活者参加促進と 回収量増のための動機づけ	<ul style="list-style-type: none">• 最適な回収拠点の検討（アンケート調査）• 効果的な情報発信の仕組みづくり• インセンティブの効果測定
② 多様な連携による 新たな循環利用モデルの構築	<ul style="list-style-type: none">• 繊維to繊維リサイクルの検討• アップサイクル製品の開発・販売の検討• 建築資材などへの地域資源としての活用
③ 回収に係る物流の実証	<ul style="list-style-type: none">• 拠点特性に応じた回収システムの構築• 運搬計画の最適化• 物流におけるCO₂排出量の測定・算定

3.事業の成果：総回収量と環境貢献度

2025年11月1日～12月19日の約1.5ヶ月間において、概ね衣類回収量および資源化循環率の目標を達成。またCO2排出量の大幅な削減を達成しました。（当初目標：10,000kg/3ヶ月）

環境貢献度（デカボスコア）



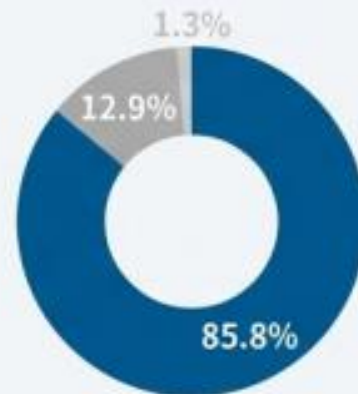
衣類4,972kgを焼却した場合と比較し、本プロジェクトの回収・資源循環によりCO₂e排出量を97%削減しました。

- Before (焼却処分): 79,276 kg-CO₂e
- After (本事業): 1,849 kg-CO₂e
- 削減貢献量: 77,426 kg-CO₂e

※算出：Earth hacks株式会社「デカボスコア」

総回収量と資源循環率

総回収重量
4,972 kg



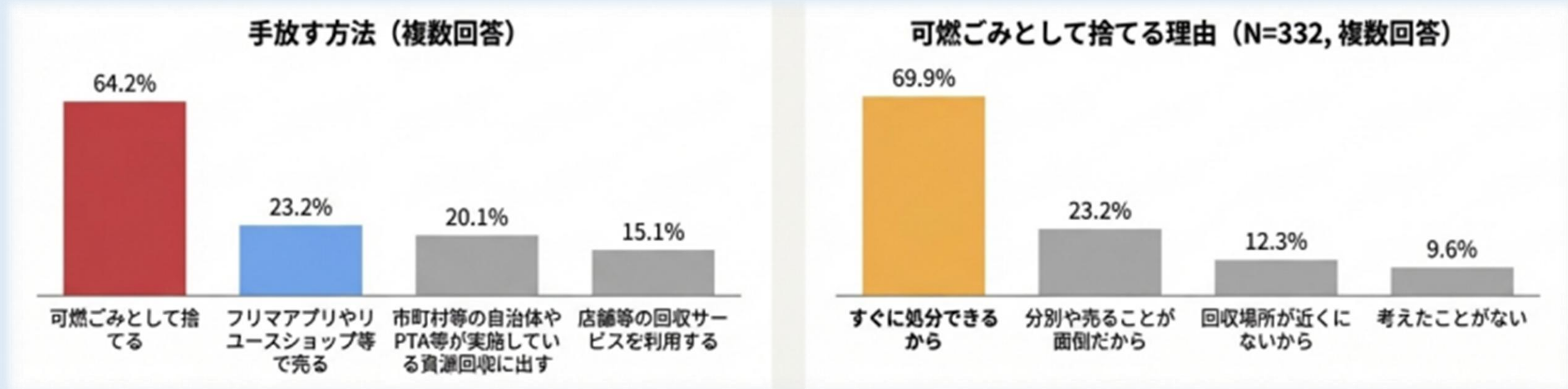
リユース: 85.8% (4,266.1 kg)
リサイクル: 12.9% (641.4 kg)
サーマルリサイクル: 1.3% (64.5 kg)

4.生活者インサイト①：まだ着られる衣類の6割以上が「ごみ」として廃棄

大阪府民（500名以上）へのアンケート調査から、衣類を手放す際のリアルな行動と意識が明らかになりました。

まだ着られる衣類の主な手放し方

最も多い方法は「可燃ごみとして捨てる」（64.2%）。単一回答でも過半数（51.3%）を占める。



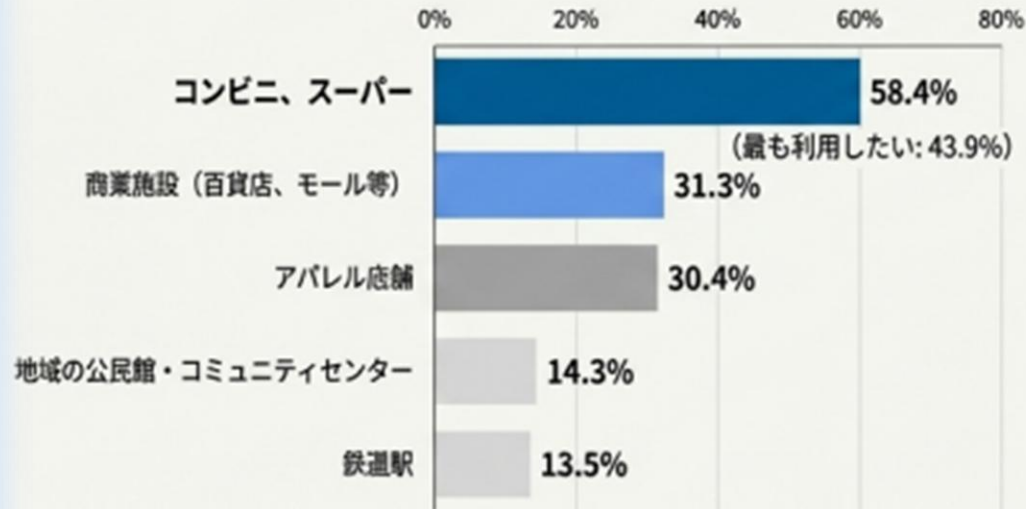
【考察】

多くの生活者は、環境への意識よりも処分の「手軽さ」「即効性」を優先している。資源回収の参加率を向上させるには、「ごみとして捨てる」ことに匹敵する、あるいはそれ以上の「利便性」を提供することが不可欠です。

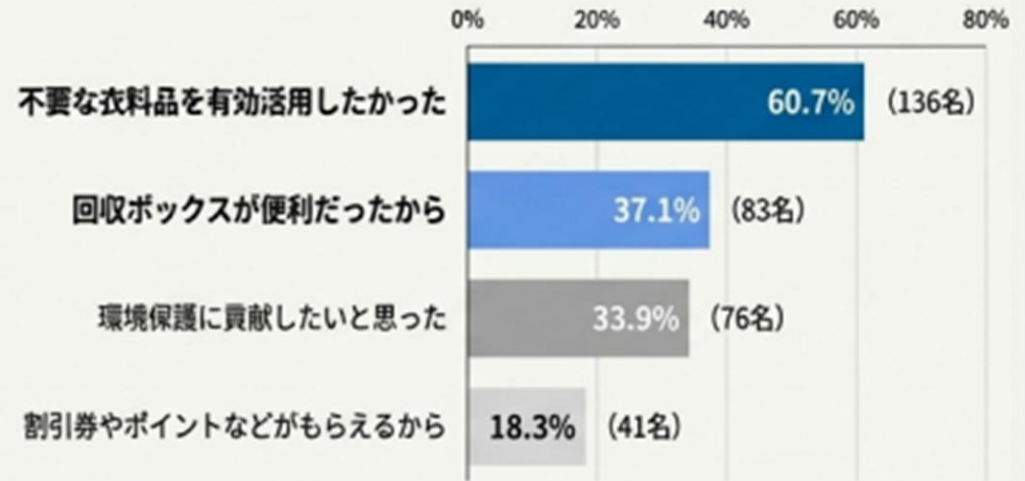
5.生活者インサイト②：回収参加の鍵は「身近さ」と「利便性」

では、どのような場所であれば生活者は回収に参加しやすいのか。アンケートから、日常生活の導線上に回収拠点が存在することの重要性が浮かび上がりました。

利用しやすい回収ボックスの設置場所 (N=517, 複数回答)
「コンビニ、スーパー」が突出して高く、生活に密着した場所への設置ニーズが非常に高いことが分かります。



衣類を回収に出す理由 (回収経験者, N=224, 複数回答)
回収経験者は「不要な衣類の有効活用」を最も重視。また「回収ボックスの利便性」も高い動機となっています。



※ベースは回答者517名のうち「回収に出したことはない」(293名)を除く224名

【戦略的示唆】

- 回収システムの設計は「生活導線上への設置」が最優先。メッセージングは「環境貢献」だけではなく、「あなたの服を次に活かす」という有効活用の側面と「買い物ついでに手軽に」という利便性を訴求することが効果的です。
- 上記も踏まえ、生活者に密接な「会社 (オフィス)」、「学校」などへの回収ボックス設置も「衣類＝資源物」の行動変容となり得ます。

6.行動変容を喚起する、多角的な広報・プロモーション展開

①Webサイト（2025年11月1日～2025年12月19日掲載）
<https://ohoho-cycle.jp/>



②共通デザインの回収ボックス（継続設置）
 大阪府内76拠点へ設置



③梅田駅デジタルサイネージ（2025年10月6日～2025年10月26日）
 乗降客数（約100万人）の梅田駅でのデジタルサイネージ掲載による認知拡大。

媒体名	サイズ	提出枚数 面数	期間
阪急デジタルサイネージ 2階コンコース（左）	70インチ 47インチ	中央改札前17面 JR連絡橋 7面 JR連絡通路 9面	10月6日～10月12日
阪急梅田Grandビジョン（中央）	275インチ	1面	10月6日～10月19日
JR西日本 J・A DビジョンWEST 大阪駅ルクア前セット（右）	70インチ	30面	10月20日～10月26日



④大阪・関西万博のイベント 「KANSAIリメイクコレクション」とのコラボレーション (2025年10月4日 13:00より)

大阪・関西万博にてoHOHo CYCLE PROJECTで回収した衣類が活用されます！

大阪・関西万博では、関西の魅力を広くPRし、関西各地への周遊を促進することを目的に、「関西WEEK」が開催されます。期間中に実施されるリメイクファッションショーにて、oHOHo CYCLE PROJECTで回収された衣類が活用されますので、お知らせします。ぜひ、会場をご覧ください。

- 日時：令和7年10月4日（土曜日）13時00分から13時30分まで
- 会場：大阪・関西万博 ポップアップステージ南
- 料金：無料（万博会場への入場にはチケットと来場日時予約が必要です。）
- 事前予約：不要
- 主催：関西広域連合
- 備考：関西WEEK期間中（令和7年9月29日から10月5日まで）は、大阪・関西万博のギャラリーEASTにて、リメイク&アップサイクル商品の展示も行っています。

詳細は「関連リンク」の（令和7年9月9日報道発表）『関西WEEK』の開催についてをご覧ください。

国連は、2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標（SDGs）」を2015年9月に策定しました。本事業は、SDGsに掲げる17のゴールのうち以下のゴールの達成に寄与するものです。



大阪府では、「SDGs未来都市」として、SDGsの推進を図ってまいります。

⑤FM802「FUNKY MARKET」へのブース出展 (2025年10月26日 9:30より)



⑥おおさかCFPプロジェクト「どこや さがそや脱炭素」とのコラボレーション (2025年10月26日 9:30より)

衣料品回収ってどれくらい脱炭素なの？

実はあなたのアクションがCO2削減に貢献してるんです。知ってるようで知らなかった貢献度を見える化しました。

97% off oHOHoの衣類回収を利用した場合

焼却処分をせずに衣類を回収に出した場合のCO2削減量

15.3kg CO2e

Before: 15.7kg CO2e
After: 0.4kg CO2e

回収予定の衣類1kgを焼却処分した場合 oHOHo CYCLE PROJECTへ廃棄予定の衣類1kgを回収し回収品を再活用（令和7年度実施事業）

35% off 回収された衣料品をTシャツにアップサイクルした場合

Tシャツ1着あたりの原材料の調達から製造までの工程におけるCO2削減量

1.08kg CO2e

Before: 3.01kg CO2e
After: 1.93kg CO2e

ポリエステルから新しく作ったTシャツを製造した場合 回収された素材からアップサイクルされた素材でTシャツを100%でTシャツを製造した場合

さらに

商品やサービスの排出CO2相当量の“削減率”を「デカボスコア」として可視化しています。

さらに詳しく知る →

#05 oHOHo CYCLE PROJECTの取組

服を捨てる前に回収するだけでCO2を**97%カット!**

「捨てる」から「つなぐ」へ。衣類の未来を大阪から変えていく。

デカボスコア 97% off

どこやさがそや 脱炭素

項目4の生活者へのアンケート結果から（Q10. 『oHOHo CYCLE PROJECT』の取組を知っていますか？）前記①～⑤などの広報・プロモーションにより、「oHOHo CYCLE PROJECT」の認知度は大阪府民の約10%となりました。

7.強化項目①に対する結果と考察：生活者の動機づけ

【強化項目①】生活者参加促進と回収量増のための動機づけの実証



(1) インセンティブ設計と効果測定

非金銭的インセンティブの効果測定には至らなかったものの、青山商事の事例分析から、金銭的インセンティブが「参加のきっかけ」として有効である一方、一人当たりの回収量が減少し、コスト効率に影響を与える可能性を特定。今後のインセンティブ設計における重要な示唆を得た。



(2) 回収拠点の検討

生活者アンケートにより、回収拠点として「コンビニ・スーパー」といった生活動線上の場所へのニーズが極めて高いことを定量的に証明。今後の拠点拡大戦略において、「利便性」を最優先すべきという明確な指針を得た。



(3) 情報発信の仕組みづくり

oHOHo CYCLE PROJECTの共通ロゴを掲げた回収ボックスの設置、デジタルサイネージやWebサイト、イベント（FM802 FUNKY MARKET等）を通じた多角的な情報発信を実施。76拠点という広範なネットワークで連携し、統一感のあるメッセージを発信できることを実証した。

【総括】

生活者の行動変容を促す鍵は「圧倒的な利便性」と「分かりやすい情報発信」にあります。インセンティブはあくまでも補完的な役割であり、コストとのバランスを考慮した慎重な設計が求められます。

8.強化項目②に対する結果と考察：循環モデル

【強化項目②】多様な連携による新たな循環利用モデルの構築

新たな循環利用モデルの構築

回収した衣類の85.8%をリユース、12.9%リサイクルへと繋げる具体的な循環ルートを確認。
繊維to繊維や建築資材へのアップサイクルは今後の課題としながらも、まずはリユースを中核とした経済的に持続可能なモデルの基盤を構築した。（前年度の衣類回収を青山商事が「ウェアシフトスーツ」として販売 ※下記右下写真）

また当初の連携企業以外に、シキボウ(株)様、建築資材等へのリサイクルが可能なモリリン(株) (PANECO ※下記左下写真) や、リユース・リサイクルできない衣類をエネルギーとセメントとして活用可能な住友大阪セメント(株)の参画が今後の当事業の可能性を大きく広げることとなりました。



店舗什器 | Retail Fixtures

什器や棚、ディスプレイ台などの空間演出に
Fixtures, shelves, and displays for spatial design



家具 | Furniture

テーブルやベンチなど存在感のあるデザインに
For tables, benches, and feature furniture



内装材 | Interior Finishes

壁面やカウンターなど、空間の仕上げ材に
For walls, counters, and other finishes



フロア材 | Floor Surfaces

オフィスや店舗などの床材として
For flooring in commercial and office spaces

PANECO®は、衣類をはじめとした繊維廃材を原料にアップサイクルされた循環型リサイクルボードです。

素材のもつ質感を活かしながら、空間演出やディスプレイ什器、内装材などに利用可能な新たなマテリアルとして、さまざまな業種で採用が進んでいます。

私たちは「ファッションロスゼロ」を掲げ、単なるリサイクルにとどまらない循環の仕組みを構築し、未来につながる持続可能な選択肢を広げています。

<https://paneco.tokyo/>

01 素材分別不要 Recyclable as-is

衣類に多く使われる複合素材や副資材も、分別せずそのまま再資源化。
PANECO®は、仕分けの手間なくアップサイクルできます。
PANECO® eliminates the need for separation. Even garments with mixed fibers and trims can be upcycled without sorting.

02 意匠性 High aesthetic value

環境配慮だけでなく、空間に取り入れたい素材を追求。90%以上を廃棄衣料と廃木材で構成し、天然石のような見た目と温もりある素材感を兼ね備えています。
More than eco-friendly, made from over 90% discarded clothing and waste wood, with a stone-like appearance and a warm, inviting texture that fits naturally into interior spaces.

03 加工性 Workability

パーティクルボードやMDFと同等の物性を持ち、既存の木インフラで加工可能。
カットや穴あけなども自在で、家具や什器など多用途に対応します。
PANECO® matches the properties of particleboard and MDF, and can be cut and processed using standard woodworking tools—ideal for furniture, displays, and more.

04 寸法安定性 Dimensional stability

特に長さ方向の膨張率がMDFの約1/3という高い寸法安定性を確認。化学繊維由来の特性により、湿度変化にも強く、反りの発生も抑えられると考えられます。
PANECO® shows high dimensional stability, with length expansion about one-third that of MDF. Its synthetic fiber content offers strong resistance to humidity and warping.

05 再資源化 Recyclability

使用済みのPANECO®は、再度の粉砕・成形によって新たなボードとして再生可能。
一度きりで終わらない循環設計が、持続可能な社会の実現に貢献します。
Used PANECO® boards can be pulverized and remolded into new boards, enabling repeated recycling and supporting a more sustainable material cycle.



【生地・仕様】

■尾張匠布® for WEAR SHIFT

世界三大毛織物産地である尾州にて「回収衣料」や「製造過程で発生する裁断布」をリサイクルしたサステナブル素材です。リサイクルウールは紡毛番手になりますが、これを「梳毛見えのスーツ素材」として使用できるよう開発しました。

■ECOBBLUE®

ECOBBLUE®はマテリアルリサイクルにより、ペットボトルを繊維へと再生しています。当製品は裏地の糸の一部にECOBBLUE®を使用しています。

<https://www.y-aoyama.jp/ec/shop/campaign/pg/1wear-shift/>

9.強化項目③に対する結果と考察：物流

【強化項目③】衣類回収に係る物流の実証

回収に係る物流の実証

ルート回収と個配回収のコストを比較分析。

現状の回収量（約3.4トン/月想定）では、個配回収（kg単価82円）がルート回収（同272円）とリコスト優位性があることを実証。大阪府内の将来的な損益分岐点として月間約12トンという具体的な数値を算出し、事業規模に応じた最適な物流モデルの重量指針となった。

【見積金額】

個配回収（日本郵便）：278,750円/月

ルート回収（日本通運）：924,000円/月

（個配運賃単価）

- ①回収重量/月 3,400kg（目標10,000kg/3ヶ月）
- ②1箱の重量 13.6kg（青山商事平均実績・三辺合計160センチの箱）
- ③1箱の運賃 1,115円（三辺合計160センチの箱）
- ④回収箱数/月 250箱（①÷②）
- ⑤運送費/月 278,750円（③×④）
- ⑥kgあたり運送費 **81.98円**（⑤÷①）

（ルート回収運賃単価）

- ①回収重量/月 3,400kg（目標10,000kg/3ヶ月）
- ②運送費/月 924,000円
- ③kgあたり運送費 **271.76円**（②÷①）

（将来的な損益分岐）

$$924,000円（ルート回収月間運送費） \div 81.98円（個配kgあたり運送費） = 11,271kg（損益分岐重量/月間）$$

【総括】

事業の初期段階では、リユースを軸に収益性を確保し、物流は変動費型の個配回収でコストを抑制することが最も現実的かつ効果的な戦略です。事業規模の拡大に合わせ、ルート回収への移行を段階的に検討していく必要があります。

10.結論：本実証事業から得られた3つの主要な示唆

本モデル実証事業を通じて、大阪における持続可能な衣類回収システムの構築に向けた、具体的かつ戦略的な知見が得られました。

1

生活者の行動変容は「利便性」が最優先

アンケート結果は明確に、生活者が衣類回収に求める最大の価値が「利便性」であることを示しました。金銭的インセンティブは参加のきっかけになるものの、システムの根幹は「ごみとして捨てるより手軽」と感じさせる回収ネットワークの設計に置くべきです。

2

「協調領域」としての連携が不可欠

自治体が抱える「回収量の不安定さ」や「担い手不足」という課題に対し、民間が持つ「顧客接点（店舗網）」は強力な解決策となります。業界や企業の垣根を越え、共通のロゴと目的の下で連携することで、生活者への認知と信頼を飛躍的に高めることができます。

3

経済的持続可能性の現実的な道筋

事業の収益性は、当面は「リユース」が支える構造となります。物流は回収量に応じた「個配」から始め、事業規模拡大の損益分岐点（12t/月）を見据えて「ルート回収」へ移行する。この段階的なアプローチが、持続可能な事業運営の鍵となります。

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の設立

2024年度より、民間企業と大阪府が共同で衣料品の地域共創型サーキュラーエコノミーの構築を目指した取り組みがスタートしました。この取り組みは、環境省が推進する「使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」として2年連続で採択されています。

そして本取り組みを11月25日（火）より、「サステナブルファッション・プラットフォーム協議会」として新たに設立いたしました。

サーキュラーエコノミーの推進や、2050年のカーボンニュートラル達成にも寄与する豊かな地域社会の実現を目指し、同じ想いで集まった各企業や地方自治体等が協力して、回収、運搬、分別・再利用、再資源化を行い、一つずつ課題を明らかにし、解決策を検討してきました。本協議会設立により、大阪からサステナブルファッションをさらに推進していきます。

繊維製品における資源循環ロードマップ実現に向けた協議会の活動体制(予定)



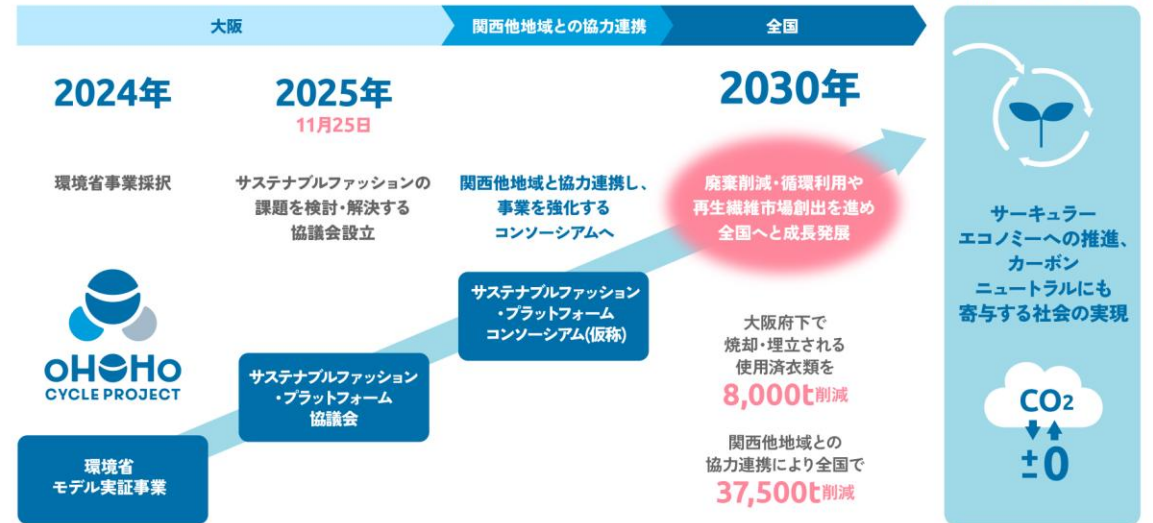
主な活動内容(予定)

- 最新動向の調査・共有
- 会員企業等のマッチング
- 使用済衣類の回収・リユース・リサイクル事業
- CO2排出量削減施策の検討
- 商品価値を高めるトレーサビリティの確立
- 使用済衣類に関連する地域課題解決
- 補助金整備等を含む政策提言
- 官民連携での生活者への啓発活動
- 繊維to繊維リサイクルの実現

私たちは、大阪で本協議会を立ち上げ、サステナブルファッションの実現に向け、回収システムを構築し、関西他地域に広げます。

循環利用*の事業性に力を入れたコンソーシアムに成長し、再生繊維市場を生み出し、全国へと発展します。

※ 循環利用・・・リユースやリサイクル等



※ oHoHo CYCLE PROJECTは、環境省 令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業に基づいており、サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の前身となる取り組みです。

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の設立

<ビジョン>

地域社会の豊かな未来に貢献するため、サプライチェーンが一体となった、衣類における地域共創型サーキュラーエコノミーの実現を目指します。

<活動目的>

大阪から、サステナブルファッションを推進するため、使用済衣類の再利用（リユース、リサイクル等）によりサーキュラーエコノミーへの移行を促進し、使用済衣類の廃棄を削減します。

<活動方針>

- ①生活者が手軽に衣料品回収に取り組める環境を整え、継続できる透明性の高い衣料品回収システムの構築
- ②回収した衣類の循環利用・サステナブルファッションのマーケット開拓

<コミットメント>

- ・メンバーは各々の強みを活かしながら、業種の垣根を超え共創します
- ・本プラットフォームは、常に公平性を尊重し、中立性と社会性のある取り組みを推進します
- ・CO2排出量の削減率など、取り組みによる効果を可視化します

<量的目標>

- ①2030年度に大阪府下で焼却・埋立される使用済衣類を8,000トン削減（2020年比）することを目指し、年間で8,000 t 以上の使用済衣類を回収
- ②国内での循環利用（リユース、リサイクル）で年間3,500トンを処理

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の設立

【入会条件と会員ごとの主な活動内容】

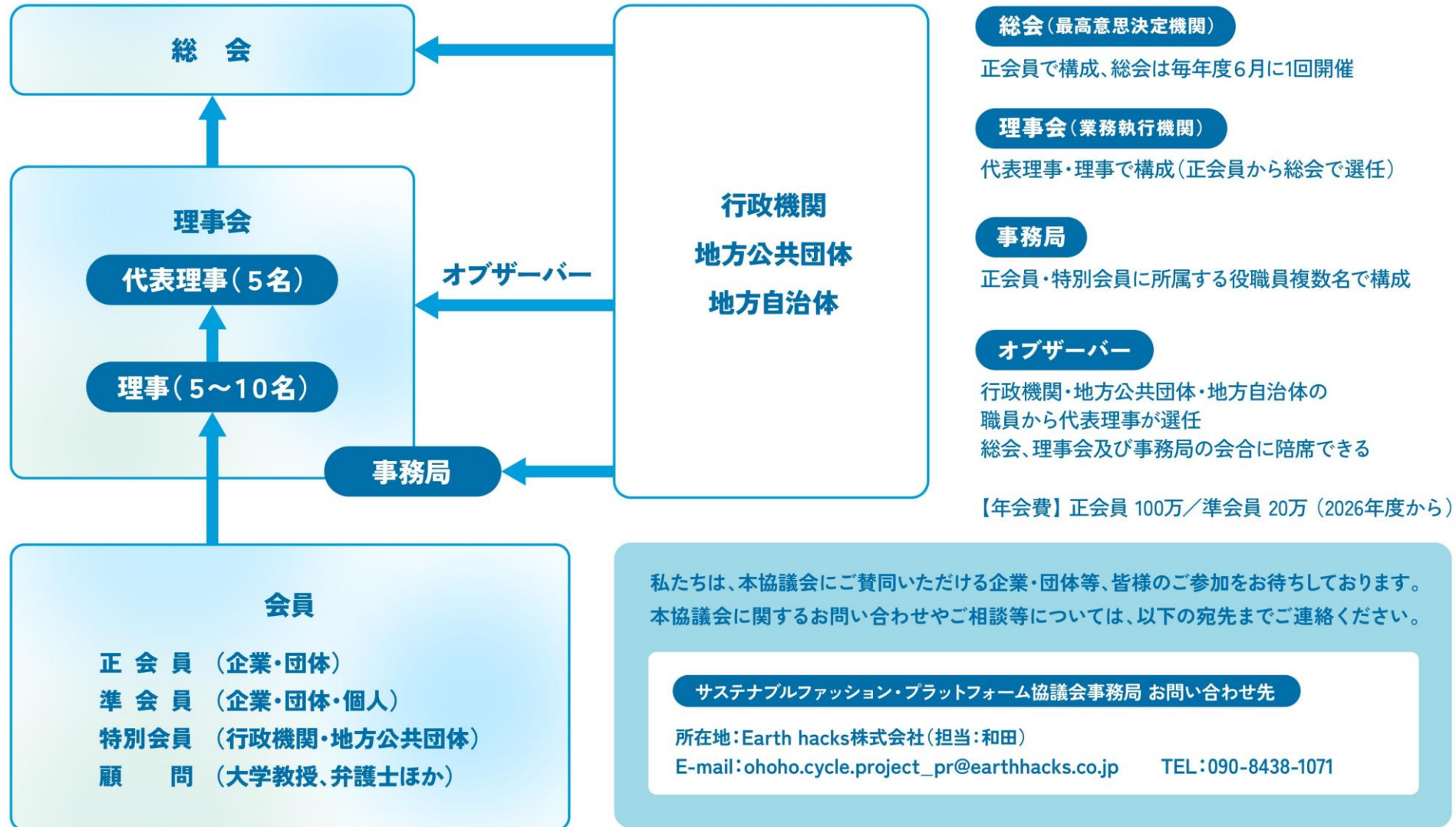
会員の役割	入会条件・活動内容	主なメリット
回収	<ul style="list-style-type: none">●生活者が衣類の回収に容易に協力できるよう、<u>店頭や自社施設内で回収拠点を設けること</u>●回収した衣類の(一定期間の)保管、集約、運搬・選別・パートナーへの<u>引渡しに協力</u>できること	<ul style="list-style-type: none">●回収事業への容易な参画
運搬	<ul style="list-style-type: none">●<u>効率的な運搬計画を策定・提案</u>できること●<u>より環境負荷の低い運搬方法を目指し、協力</u>できること	<ul style="list-style-type: none">●運搬機会の拡大
選別	<ul style="list-style-type: none">●循環利用(リユースやリサイクル等)に必要な<u>衣類の選別</u>ができること●選別した衣類の<u>トレーサビリティ(重量・選別割合)を確立、開示</u>できること ※ 国外へ輸出する場合は、輸出後も含む	<ul style="list-style-type: none">●選別機会の拡大
循環利用 (リユースやリサイクル等)	<ul style="list-style-type: none">●国内での<u>循環利用</u>ができること●リサイクルの場合、水平リサイクル等の<u>高度なリサイクル</u>や、より環境負荷が低く、生活者のニーズに合った循環利用のため、既存のアイデアにとらわれない取組みができること●高度なリサイクル方法や回収した衣類(素材)の利用に関して、保有する<u>科学的な知見・ノウハウ・設備等を活用し、協力</u>できること	<ul style="list-style-type: none">●繊維to繊維リサイクルへとつながる循環利用機会の拡大
製造	<ul style="list-style-type: none">●<u>環境配慮設計</u>(リサイクルのしやすさ、再生材料の積極的な使用、適正な品質表示等)や製造について協力できること	<ul style="list-style-type: none">●再生繊維への優先的アクセス
販売	<ul style="list-style-type: none">●本プラットフォームで循環利用された<u>製品の販売等について協力</u>できること●店頭または自社施設内で循環利用された<u>製品の販売場所の提供や周知活動</u>ができること	<ul style="list-style-type: none">●トレーサビリティが確保された製品販売●再生繊維由来製品の販売
その他 (特別会員含む)	<ul style="list-style-type: none">●本プラットフォームのビジョンのもと、<u>生活者の意識改革や行動変容への働きかけ</u>等、各々の強みを活かした協力ができること●循環利用の<u>環境効果の見える化</u>や、必要な<u>データの取得</u>、運用改善等の検証、提言について協力できること	<ul style="list-style-type: none">●事業機会の拡大●地域課題の解決

なお、上記の全ての役割に共通する、入会条件・活動内容として、会員は、サステナブルファッションに関する情報発信も担います。

※ また、会員の役割は、必ずしも、上記の区分で厳密に分けるものではなく、例えば、一部分、他の役割を担う等して活動いただくことも可能です。詳細についてのお問い合わせ等は、前述のお問い合わせ先にご連絡ください。

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の設立

【組織体制図】



Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会 ステートメント

1

気候変動・
資源循環
への貢献



パリ協定に賛同し、CO2排出量を削減する使用済衣類のサーキュラーエコノミーに
取り組み、会員の環境対応や情報開示を促進します。

2

政府目標の
共同実現



「使用済衣類の廃棄を削減し、繊維to繊維リサイクルを実現する」政府目標の実
現に向け、販売、製造、運搬、分別・再利用、再資源化や他業種等の会員と、お
互いに尊重しあい、広く協力して課題を解決します。

3

政府との連携



省庁等との密な連携・協議を志向し、政策提言等を行うことで、調査、研究開発、
実証、社会実装等に関わる補助金や、規制の整備・見直し等、会員にとって必要
な環境づくりを進めます。

Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会 ステートメント

4 地域との課題解決



地域との連携を深めながら、使用済衣類の回収、リサイクル・リユース等に取り組み、**地域インフラの最適化や課題解決**にも貢献します。

5 費用低減の追求



回収・運搬、技術開発・処理施設導入の費用等について、**会員全体で、規模の経済を効かせることや、社会における拋出のあり方を構想すること等、互いに協力して低減させる解決策を検討**し、持続可能な取組を目指します。

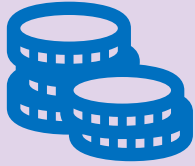
6 高付加価値取引の実現



使用済衣類の廃棄を削減するべく、**トレーサビリティを確保し、啓蒙すること等を通じて、循環性の価値を確立**し、高付加価値取引を実現します。

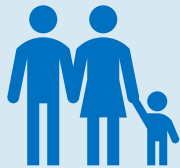
Appendix_サステナブルファッション・プラットフォーム協議会 ステートメント

7 資金調達力の強化



例えば、複数の会員が、サーキュラーエコノミーを共同で進めるコンソーシアムを組成し、事業資金の調達を容易にする等、**一企業だけでは進めづらい資金調達を強化**します。

8 生活者志向



小売業の会員に、生活者や地域と、サーキュラーエコノミーの輪を作る各会員の「つなぎ役」になる機会を提供し、**生活者のニーズに寄り添い、行動変容を促し、生活者目線で需要を生む**取組を進めます。

9 再生繊維市場の創出



上記を通じ、繊維to繊維リサイクルに向けた環境を早期に整え、**将来、希少性が高まる再生繊維に会員が優先的に安価にアクセスできる市場を生み**、経済合理的に、大阪から全国へと成長発展します。

